

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	22-013	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳） Strategies to cut down drinking, alcohol consumption, and usual drinking frequency: Evidence from a British online market research survey 飲酒量を減らすための戦略、アルコール消費量、普段の飲酒頻度：イギリスのオンライン市場調査からのエビデンス		
執筆者 Sasso A, Hernández-Alava M, Holmes J, Field M, Angus C, Meier P.		
掲載誌 Soc Sci Med. 2022 Oct;310:115280. doi: 10.1016/j.socscimed.2022.		
キーワード	PMID	
アルコール消費、行動変容手法、潜在クラス分析、誘惑	35994876	
要 旨 <p>背景: これまで、健康リスクの高い行動を抑制しようとする際に、人々が誘惑に対処するために用いる複数の潜在的戦略は特定されているが、リスクの高い飲酒者が、専門家の支援がない場合にどのように飲酒を控えるかについては、あまり知られていない。本研究の目的は、英国の成人が用いる節酒のための戦略について、その種類を特定し、戦略によって飲酒量がどのように異なるか、特に飲酒頻度の観点について検討することである。</p> <p>方法: 市場調査会社が収集した反復横断調査と1週間の飲酒日記を使用した。これらは、2013年から2019年にかけて飲酒量を減らそうとしている49,204人の英国成人を対象に調査したもので、アルコール消費量と個人がアルコール使用を控えるために用いた方法についての詳細な情報を提供している。解析には、潜在クラス分析（LCA）を用い、節酒戦略のタイプを特定し、異なる節酒戦略の採用、飲酒イベントでの頻度や強度、普段の飲酒頻度との関連を分析した。</p> <p>結果: 本検討により4つの節酒戦略が特定された。1つは、事前のコミットメントに焦点を当てた戦略（飲酒機会を減らす）で29%の人がこれに該当した。2つ目、3つ目としては、飲酒機会内でセルフコントロール戦略を採用し（具体的には28%がより小さな飲み物を選択、5%が飲酒量を減らす）であり、4つ目としては、これら3つすべてを含む混合戦略を38%の人が採用していた。コミットメントを用いる人は、セルフコントロールを用いる人に比べて、飲酒機会あたりの平均消費量が多いが、週間消費量は少ない傾向にあった。特に、普段からお酒を飲む人で、セルフコントロール戦略でお酒を減らしている人は、1週間のアルコール消費量が多い結果であった。</p> <p>結論: これらの分析結果は、飲酒量を減らしたい対象のために、異なる節酒戦略の相対的な有効性を検証するための前向きデザインや介入デザインを実施するうえで、有用な仮説となる情報を提供するものであるといえる。</p>		